

令和元年度ルネサンス高等学校評価書

大 子 町

1 学校の概況

○学 校 名 ルネサンス高等学校

○課 程 広域通信制・単位制・普通科

○教 職 員 校長 桃井隆良

教頭兼事務長1名 教諭(常勤)15名 教諭(非常勤)14名

養護教諭2名 事務長補佐1名 事務2名 用務1名 計37名

○生 徒 数 (学則定員 3,300名) 1,075名

令和元年度入学者数 554名

○スクーリング参加生徒数 1,020名

○卒 業 生 419名

進学37.7%,就職33.9%,その他(家事手伝い,現在の仕事の継続等)28.4%

(1) 教 職 員

教職員数については、常勤の教員15名非常勤の教員14名(うち9名は姉妹校との兼任)、計29名を配置している。添削指導については、すべての教科について専任の教員が本校において実施する体制を整えるとともに面接指導(集中スクーリング)については、姉妹校との兼任の教員を加えて各教科とも生徒数に応じた教育ができる人員を確保している。

今後の生徒数の増加に対応しながら、教科指導の専門性を高めていくため、さらに優秀な人材を確保するとともに常勤の教員の割合を高めていくことが必要である。

また、現在の地元採用状況は3名(大子町在住者3名)となっているが、人材確保のために関係機関と連携し、当初の目的の一つである地元雇用促進に継続して努めていくことが望まれる。

(2) 生 徒 数

在籍生徒数は、東日本大震災や豊田校開校などの影響から回復した平成24年度以降、少子化や他の広域通信制高校との競合などの影響を受け、27年度1,076名、28年度968名、29年度937名、平成30年度927名とやや減少している傾

向が見られたが、令和元年度は1,075名で前年に比べ約100名増加した。

入学者数については、平成27年度（359名）と比べると、28年度455名、29年度387名、30年度444名、令和元年度554名と増加している傾向がうかがえるものの、決して予断を許せない状況にある。

なお、増加の要因としては、平成31年4月に新宿代々木キャンパスでeスポーツコースが開校されたことが考えられる。

今後は、不登校経験者や高校中途退学者等のこれまでの主たる大学対象者に加え、中学生や全日制・定時制高校に通う高校生に対し、ルネサンス高校の教育システムの魅力を発信していく必要がある。

平成25年度から法人税所得割の納付が始まっており、経営の基盤は整っていると見えるが、今後とも中学校・高等学校に対する広報活動を強化し、地元（茨城県・大子町）からの入学者をさらに増加させるよう努め、定員である3,300名の確保を目指していく必要がある。

(3) スクーリングによる経済効果

スクーリングについては1,020名が参加しており、宿泊、送迎バス、施設利用、生製品の購入等、体験学習及び観光等を通じて年間66,300,000円（1人あたりの参加費65,000円）の経済効果が認められる。

2 学校の教育活動

ルネサンス高等学校は、『学力がつく・やりたいことを極める』新しい高校』を教育理念として、令和元年度は、4つの目標「1 基礎学力を再生して（学力回復教育）高校を卒業」「2 学ぶ楽しさを体験する科学の授業で、生涯を学び人に」「3 日覚めよ！自分力。やりたいことにチャレンジ」「4 徹底的な個人指導と親身なサポート体制」を掲げて教育活動に取り組んできた。

その結果については、ルネサンス高等学校学校評価・改善委員会により、別紙のと通りの学校評価（自己評価）がなされている。今後とも、学習指導要領及び高等学校通信教育規定に基づく質の高い教育活動が展開できるよう教育内容のさらなる充実と教員の指導体制の強化に努めていくことが必要である。

(1) 教育課程

学習指導要領及び高等学校通信教育規定に基づく適切な教育課程が編成・実施され

ている。

また、生徒の入学年次ごとに標準履修科目を設定しているが、転編入学の生徒に対応できるように単位制の趣旨を生かして履修モデル以外の科目も履修できるように編成されている。今後とも、履修相談に当たり生徒の希望をよく聞き、生徒の特性、進路等に応じた科目の選択ができるよう努めていく必要がある。

(2) メディア学習の充実

設立当初から、インターネットを活用して、生徒が動画を視聴した上で、小テストにより理解度を確認しながら学習が進められるようにメディア教材を工夫している。

さらに平成27年度から複数のメディア教材を導入し、今年度は7科目について「東京書籍教科書解説メディア」、「NHK高校講座」、本校の自主制作メディアなどの中からの2メディアで学習する体制をとっている。

内容・程度ともに通信制教育を念頭に置いて制作された「東京書籍教科書解説メディア」及び「NHK高校講座」に加えて、本年度は多くの科目について自主制作メディアを用い、より生徒の実態に合うように内容が改善されている。

生徒が複数のメディア学習を行ったことは、インターネットの視聴履歴で確認するとともに、視聴後にそれぞれのメディアの内容に関する設問をすることにより確認している。

(3) 添削指導

従来からインターネットを活用してレポートを提出させる添削指導を行っており、レポートの内容は、選択肢から正答を選ぶ設問や用語及び文章で記述させる設問など、多様な形式を採り入れたものとなっている。

不正解の内容を含むレポートについて、記述式の場合は個別の指導や解説を付して返却している。しかし、択一式の場合は正誤を判断しただけで返却しており、記述式の場合と同様に丁寧に添削していくことが、次年度以降の課題である。

(4) 面接指導

面接指導（スクーリング）の日数については、27年度以降は2メディアで学習する体制をとったことから、学習指導要領を運用して面接指導の時間数を一律に8割以内で免除する措置を採用して2泊3日を実施してきた。本年度は、平成28年9月に策定された「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」の趣旨に基づき、面接指導時間数を一律に8割以内で免除することを改め、6割以内の免除を基

本とするよう改善し、3泊4日で実施した。

面接指導の内容については、各教科・科目の担当教員が、生徒の興味・関心を考慮しながら、メディア学習の内容と関連付けて限られた時間の中で完結するよう内容を工夫した授業が展開されている。

平成28年度までは、内容の類似した科目（例えば、現代文Aと現代文B）は同一の教員が合わせて指導していたが、平成29年度以降は、履修する生徒が少ない科目についても、科目ごとに指導者・実施場所・指導内容を分けた個別指導を充実させるよう改善されている。

(5) 試験

試験は、本校において、面接指導期間中に複数の教諭の監督の下で厳正に実施されている。

出題形式については、すべての科目について記述式の問題数が選択肢の問題数より多くなっており、内容、分量とともに適切である。また、問題は毎年新たに作成するとともに、各科目とも難易度が同程度の問題を複数用意し、不正行為が行われないよう配慮されている。

なお、試験は面接指導期間中に実施しているため、面接指導の時期が早い場合、当該年度の添削指導や面接指導が十分に行われない段階で受験する生徒がいるという問題が生じていた。この反省に立ち、昨年度から、面接指導を11月以降に実施し、また、試験時間を3泊4日のスクーリングの最終日に設定することにより、添削指導や面接指導が進んだ段階で試験を実施するよう改善された。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、令和2年2月28日に文部科学省から小学校等の一斉臨時休業を要請された。その影響により、3月に行う予定であったスクーリングを中止せざるをえなかった。対応として、文科省からの「新型コロナウイルス感染症対策のための小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業に関するQ&Aの送付について（3月3日時点）」をもとに判断し、面接指導は家庭でのプリント学習（個別課題）に置換え、試験はweb上で行い、個別面談は見合わせた。本来、大子校でやるべきことを自宅で行い、スクーリングの代替とした。

(6) 生徒指導

生徒指導については、校内体制や危機管理体制が整備されており、生徒の在宅時や

スクーリング参加時も含め重大な事故もなく学校教育が安全に展開されている。

また、「いじめの防止等のための基本的な方針」（平成25年10月11日文部科学大臣決定）を受けて平成27年度に策定した「ルネサンス高等学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ対策委員会を設置するとともに、校内研修を充実させている。

保護者との連絡については担任を中心に行われているが、学校としてのより組織的な対応を行っていく必要がある。

(7) 進路指導

進路指導については、進路希望の実現に向けて個々の生徒の状況に応じた支援を行っている。

新宿代々木キャンパスにおいては、希望者を対象として保護者・生徒・学校の三者による面談を開催し、進路や学校生活に関する相談を実施している。

卒業生の進路については、生徒の希望や実態に応じた支援を行い、難関大学への進学者が増加するなどの成果をあげているが、特に就職関係についてはいっそうの支援体制の充実が必要である。

(8) 保健指導

保健指導については、スクーリング時の特別活動（健康）を中心に生徒の健康管理、生活習慣、健康増進に向けた取り組みを行っている。

なお、(6)～(8)については、今後も、警察・消防・ハローワーク・学校医などの関係機関との連携をさらに強化し、保護者との連絡・連携を密にしながら、より質の高い対応を図ることが望まれる。

3 学校の管理運営

(1) 学校運営

学校運営については、学校としての運営・責任体制が整備され、教職員の信頼関係のもと、適切な教育課程に基づく教育が展開されている。今後は、校内の会議や研修会を活用し、教員の相互理解や課題に対する意識をさらに高めていくことが望まれる。

(2) 高等学校等就学支援金事務

高等学校等就学支援金事務については、法及び文部科学省の事務処理要領に基づき適正に執行されている。

しかしながら、年間を通して転編入学者がいることや生徒により前籍校での修得単

位数が異なる等の複雑な事情から、実際の事務処理において一部不備があった。今後、学校内の事務処理体制をさらに整備するなどして、さらに正確な事務処理に努める必要がある。

4 学校の施設・設備

(1) 面接指導等を実施する本校の状況

ルネサンス高校の面接指導・添削指導はすべて、特区内である太子町にある本校及び関係施設（校外における体験活動等）で実施されている。

ルネサンス高校は、廃校となった旧浅川小学校の校舎・校地活用という地域ニーズに基づき設置されたため、旧小学校の校地、校舎をそのまま引き継いで、よく整備をしながら使用している。地域住民と協力しながら四季の変化に応じた草花を植えたり、道路に面する花壇の植栽を整備したりするなど、環境美化に努めている。

また、「高等学校通信教育規定」に規定する施設（教室、図書室、保健室、職員室）及びスクーリング時に必要な設備（視聴覚設備、図書、保健関係備品等）を備えている。

本年度は、2(4)で述べたようにすべての科目について面接指導を科目ごとに分けて実施するため、1つの教室を複数のスペースに分け、個別指導のための場所を確保した。

しかしながら、旧浅川小学校校舎は、教室数が少なく、学校施設の充実を図ることについて課題があった。また、老朽化によるシロアリ被害や東日本大震災の影響による建物の傷みが著しいこともあり、学校施設の維持が課題となっていた。昨年度末に閉校となった旧黒沢小学校は、空調など学校に必要な設備が残っており、体育館も併設されている。教室数も多く、耐震化も済んでいる。また、周辺地域も自然に囲まれ、教育環境においては極めて恵まれた立地条件といえる。以上のことから、来年度は学校施設を変更し、教育環境及び地域活性化の更なる推進を図る。

(2) 連携施設の状況

ルネサンス高校は、東京都渋谷区にサテライト施設を設置している。面接指導、試験等の教育課程内の教育活動は実施していないが、学習支援、課外活動、自習などの支援を行っており、本校から離れた場所の生徒に対して学習面や生活面で支援していく貴重な場となっている。なお、連携施設における指導は、本校の教職員が兼務して

いる。

また、一昨年度から、サテライト施設が学校そのものであるという誤解を生徒・保護者に与えることのないよう、名称を「ルネサンス高校連携 新宿代々木キャンパス」と改めた。

5 学校設置会社の事業報告書の記載事項に掲げる事項

(1) 学校設置会社の役員（平成30年度）及び株式の状況（平成30年度事業報告書による）

学校設置会社であるルネサンス・アカデミー株式会社には、現在6名の役員が就任している。いずれも親会社であるブロードメディア株式会社などの他の会社の役員等を経験あるいは兼務しており、社会的信望を有している。また、代表取締役社長など複数名はルネサンス高等学校長を経験しており、いずれも学校を運営するために必要な知識又は経験を有している。

株式の状況（平成30年度）については、発行可能株式総数20,000株、発行済株式の総数7,300株、株主数1名、ブロードメディア株式会社6,660株（持株比率91.23%）、ルネサンス・アカデミー株式会社640株（持株比率8.77%）である。

学校設置会社の役員及び株式の状況は、学校を運営するに当たり適切である。

なお、来年度からは、親会社であるブロードメディア株式会社へ経営統合される。経営統合により事業基盤を強化するとともに、ガバナンスとコンプライアンス体制のさらなる強化、人材の最適化・人材育成の推進、管理部門等の集約による経営効率の向上を目指す。経営統合後においても、ルネサンス高等学校の教育内容、教職員体制に変更はなく、学校運営の状況は、これまでと変わらない。

(2) 学校の経営に必要な財産等の状況（令和元年度決算報告書による）

令和元年度における財産及び利益の状況は、売上高1,969,014千円、経常利益380,906千円、当期純利益193,039千円、総資産2,270,748千円、純資産1,013,964千円である。

学校の経営に必要な財産等の状況は、学校を運営するに当たり適切である。

教育理念	「学力がつく・やりたいことを極める」新しい高校	当年度の課題
目標(テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を再生して(学力回復教育)高校を卒業 学ぶ楽しさを体験する科学的授業で、生涯を学び人に 目覚めよ！自分力、やりたいことにチャレンジ 徹底的な個人指導と親身なサポート体制 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に基づく、質の高い教育を展開できるよう、レポート及びスクーリングの内容の更なる充実と教職員の指導体制の強化に努める。 いじめの防止等に関する措置を実効的に行うためにいじめ対策委員会を運営する。 コンプライアンスの取り組みを強化し、より質の高い学校運営をする。

※評価基準…A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:出来ていない

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善方針
学校運営	教育課程	教育目標	多様な生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた適切な支援・指導を目指せるものになっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程は左記「具体的な評価項目」の実現のために、標準的な履修科目以外の科目も多様に選択できるように編成されている。 履修相談にあたっては、生徒の希望等をよく聞き、それに応じた履修となるよう努めている。 「報告課題」(「レポート」以下同)、「面接指導」(「スクーリング」以下同)、「その他のインターネットなどの多様なメディアを利用して行う学習(「メディア学習」以下同)、「試験」の編成・実施にあたっては、上記と同様に、より柔軟で効果的な対応ができるよう、絶えず努めている。 	レポート・スクーリング・メディア学習・試験等の具体的な学習の展開においては、アンケートや日々の生徒とのコミュニケーション等を通して、生徒のおかれている現実や学習面の理解度等の把握に努める。
		学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に準拠しているか。また、その編成・実施の考え方について教職員間で共有ができていないか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程は学習指導要領に準拠している。 教育課程の編成、実施の考え方についての共有はできている。 	特に精神的及び学力的に不安のある生徒の平素の学習状況については、担任・各科目担当教員を中心に、全職員で支援できる体制を更に整備していく。
	教職員連携	組織運営	校務分掌や各委員会、主任体制などが適切に機能するなど、学校運営・責任体制が整備されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き、組織運営や校務分掌、各主任及び主事体制が適切に運用され、新任教員へのサポートも適切に行われた。 コンプライアンス研修を毎月行うなどして、その充実にも努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌や各委員会、主任体制など、学校運営・責任体制の整備には、研修を継続し、不断に努力したい。
		教員・教科間連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築された教育活動が行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間の相互理解・信頼関係に基づいた教育活動が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員間、事務職員間の連携・情報共有のため、引き続き職員会議やスクーリング会議を更に質の高いものにしていく。
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があるか。また、それらの機会を通して、相互理解及び連携がとれているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な職員会議やミーティングを行っており、教員と事務部門での情報共有・意見交換の場面設定も行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各主任、主事が適宜自発的に会議を招集していく体制づくりを行い、情報共有や意思統一を図っていく。
	学校設置会社及び財務関係	学校設置会社の役員及び株式の状況	学校を運営するにあたり適切なものとなっているか。また、その状況は学校設置会社の役員及び株式の状況が事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校設置会社の役員及び株式の状況が事業報告書に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。 	引き続き適切な運営、情報公開に努める。
		学校の経営に必要な財産等の状況	学校を運営するにあたり適切なものであるか。また、その状況は学校の経営に必要な財産等の状況が事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校設置会社の経営及び財産に関する状況が事業報告書に適切に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。 なお、より永続的、安定的な学校経営を行うため2020年度より運営会社の変更を実施した。 	
		高等学校等就学支援金	高等学校等就学支援金に係る事務について点検体制を確立し適正に執行しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 就学支援金については事務体制を維持し適正に執行されている。 	引き続き、担当職員の業務内容習熟を図り、適時性・正確性を確保する。
	施設及び設備	面接指導等を実施する施設・設備	面接指導等を実施した施設・設備が教育上適切であるか。また、それが事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 面接指導等は特区域域内の学校で適切に行われている。 各科目毎に可能な限り別教室(一部同教室別ブース)で実施した。 	面接指導等を、より適切な施設・設備で実施できるよう努める。
		連携施設	連携施設で学習面、生活面の支援が適切かつ十分に行われているか。また、それが事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 連携施設では、面接指導等は行わず、本校教職員による学習支援、課外活動等が適切に行われている。学習支援、課外活動等の内容については一層の充実の余地がある。 	連携施設における学習支援、課外活動等の内容の不断の充実を図る。
危機管理	役割分担	事故・災害などに対する教職員の連携及び役割分担が明確になっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 関係各所(警察・消防・学校医など)の連携はとれており、事件・事故・災害などの際の対応体制も整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識を高めるために半期に1度、全体会議を実施するとともに、町役場、警察、消防と一層の連携を図りたい。 	
	安全管理	安全な学習環境づくり(校舎内外の安全点検管理及び諸活動)を推進しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 本年度5月に耐震補強工事の進められている特区内施設(旧大町立黒沢小学校)に校舎を移転。 災害等に備え、教職員だけでなく生徒も参加した避難訓練を計画し実践していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を学校安全計画に位置づけ、生徒が体験的に理解できるよう計画的に実施し、万が一の災害等に備える。 	
	危機管理対応状況	危機管理マニュアルに基づき、町役場、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれているか。	B			
	個人情報管理	生徒情報管理が適切に行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーマークを取得している。(2017年) 個人情報管理に関する研修も定期的に行っており、生徒のプライバシーの確保を維持している。 コンプライアンス研修を毎月行うなどして、その充実にも努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修体制をさらに整え、生徒情報管理の徹底を図りたい。 	
教育内容・支援	スクーリング参加状況	年間計画に基づいた実施と参加の促進が行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づいた実施ができた。 	適正規模での実施に向けて、参加の一層の促進・調整を図る。	
		スクーリング内容(面接授業)	<ul style="list-style-type: none"> 適正な時間数・規模で行われているか。 各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開しているか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> スクーリングを一部8割減免時間数から、完全6割減免時間数での実施にすることにより、2泊3日から3泊4日となったが、それによって生徒の多様な履修に対応できるようになった。 上記により、時間的に余裕ができたことで、より柔軟な編成もできるようになるなど、教育内容の一層の充実を図ることができるようになった。 複数科目をまとめて面接指導することなく、科目ごとに面接指導をおこなっている。 スケジュール作成・授業編成時にミスがないよう管理システム上でのチェック体制は維持されている。 試験を、スクーリングの最後に設けず後日に実施するパターンを新たに作ることで、生徒は2回本校に来ることにはなるが、時間的余裕をもってそれぞれに臨むことができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 精神的及び学力的に不安のある生徒については特に、担任・各科目担当教員を中心に、全職員で連携し、よりきめ細やかに支援できる体制をさらに整備していく。 各授業については、学習指導案作成の徹底とともに授業参観・事後評価等を通し、その更なる質の充実・向上を図りたい。
	レポート内容・添削	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心・意欲が高まるよう教材の内容を工夫するとともに、複数メディア導入に伴う生徒の学習成果の確認を的確に行っているか。 また、インターネットを活用した添削指導に遅延がないよう、計画的に業務を行っているか。 生徒一人ひとりの学習状況に応じた解説を加えた指導を行っているか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> メディアを含む学習内容は、生徒の学習成果(興味・関心・意欲)が上がるよう、引き続き細やかな改善に努める必要がある。 添削指導に遅延がないよう計画的なメールアナウンスがなされている。 レポート添削については、択一問題で不正解になったレポートに対する個別解説や指導を充実させ、より生徒一人ひとりの習熟状況に応じたものにした。 添削指導については本校所属の教員が行うようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> メディア学習の内容を、生徒の実態を勘案しつつ、より適切なものへと不断に改善していく。また、全てのメディアについて、計画的かつ継続的な学習に十分な視聴時間を確保する。 生徒一人ひとりの学習状況に応じた解説や指導を目指していきたい。 	
	試験	試験の実施	学習成果が適切に評価できる時期に試験を実施しているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 前年度同様、試験は年度の後半(例えば4月生の場合は11月以降)に実施するなど、ほぼ適正な時期に実施するようにしている。 スクーリングを早い時期に希望する生徒は、試験は年度後半実施であるために2回本校に来ることにはなるが、余裕をもって臨むことができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の就学状況・履修状況に応じて、試験がさらに適正な時期に無理なく実施できるよう編成するよう努める。
	情報発信	ネット回線の有効活用	本校独自でネット開設している連絡・学習サイト「マイページ(通称)」にて、タイムリーな情報提供を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 左記「マイページ」により、学校イベントなどの情報提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の事務的な情報提供だけでなく、ブログ等のSNSを活用して、生徒の心の成長を助成したり、自己実現をサポートできるよう努めていきたい。
		個人に対する効果的な情報提供	上記「マイページ」にて、生徒及び保護者が、学習進捗の確認や各分野毎(進路など)の情報が閲覧できるようになっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な発信物「ルネ高通信」を自宅に発送し、生徒だけでなく、保護者にも情報提供を行っている。 	
情報教育	情報能力知識	各種活用能力の知識を向上させているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報の教科を中心に常に進化している「ネット社会の実態」について重点をおき、タブレット(IPad等)を使用しながら取り組んでいる。また、インターネットにおける若年者のトラブル・危険性についても理解を深める授業を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報ツールを活用したコミュニケーション方法を通して、生徒がより活用能力を高めることができるよう努めていく。また、継続してインターネットによるトラブル等について理解を促すよう努めていく。 	
	情報モラル指導	情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取り組んでいるか。	A			
生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進級卒業・進路決定など)が高められているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> スクーリング時の生徒指導については、教職員間で連携を取りながら対応できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関との連携を強化し、より質の高い生徒指導ができるよう努める。
		教員の共通認識と研修	学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識のもと、運営されているか。また、生徒の実態に応じたテーマについて、計画的な教員研修を実施しているか。	A		<ul style="list-style-type: none"> SNS等の活用のほか、定期的な発信物「ルネ高通信」や、インターネット上の生徒への連絡・学習サイト「マイページ」を通し、組織的な生徒指導の更なる充実を図る。
		家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活が送れるよう支援しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒在宅時については、生徒指導は保護者に任せられる部分が多いと言わざるを得ないが、家庭との連携については、担任が電話・メール・SNS等を活用し、連絡・意思の疎通に努めている。 	
	いじめ等の問題行動の未然防止	すべての生徒が安心して学校生活を送れるよう、基本方針に基づき、いじめ対策委員会が設置され、適切に運営されているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめ対策委員会を適切に運営し、いじめ防止に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関する研修等の充実を図る。 	
進路指導	キャリア教育	生徒一人ひとりの状況に即し、主体的な進路選択に結びつく適切な指導をしているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 希望進路実現(進学・就職)に向け、計画的に生徒・保護者への情報提供を実施している。 受験対策指導(筆記・面接など)の更なる工夫を模索していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路について、担任全員が最新情報を共有し、進路指導主事を中心に、よりきめ細やかで適切な進路指導を行える体制を整える。 	
	健康の保持増進	生徒が心と体の健康を自ら管理できる知識と実践力を育成しているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> スクーリングの特別活動(健康)にて、生徒の健康管理、生活習慣、健康増進に向けた取組を実施している。 生徒の在宅時の健康保持増進については、工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅時の健康保持増進を生徒に平素から呼びかけるほか、生徒本人・保護者から生活状況・健康状態を報告する仕組みを作りたい。 	
その他	学校関係者評価	「大子町通信制単位制高等学校協議会」ほか学校関係者による評価・それぞれの立場・視点から意見を出し合うことを通し、開かれた学校づくりが進められているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 評価活動を通じたコミュニケーションにより、保護者や地域住民などと学校が、お互いに理解を深めるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> より充実した関係者評価を実施し、その公表に努める。もって教育の質の向上、学校運営の改善に努める。 	
	教職員研修	教職員が計画的に校内研修に参加できる習慣や体制が整備されているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のコンプライアンス研修のほか、茨城県通信制高等学校等連絡協議会主催の研修会への参加に努めた。 姉妹校合同による初任者研修を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の実施回数に更に増やし、教職員のスキルアップを図る。 	
	他校及び関係機関との連携	姉妹校(豊田校・大阪校)や県私学通信制単位制高等学校等連絡協議会加盟校と、通信制高校の在り方などについて情報交換を行い、学校全体の教育力を高めることに努めているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月行われる設置会社主催の本部会議において、姉妹校との情報交換等を行った。 茨城県通信制高等学校等連絡協議会に欠かさず参加し、情報交換等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹校があることのメリットを最大限に活かす、連絡を密にとり、運営方法全般に関する事例等を共有できる仕組みづくりをさらに整えていくなどして、教育力の向上を図りたい。 	

校長 教頭 事務長